

平成 26 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	専修大学	職名	大学院生	助成金額	300.000 円
氏名	奥田真結子	印	メール アドレス chsts103@yahoo.co.jp		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
「文化的仲介者」としてのピーテル＝ブリューゲル―農民・周縁集団の描写から見る社会の変容と画家の意思―					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>① ウィーン美術史美術館視察および調査 オーストリアのウィーン美術史美術館（Kunsthistorisches Museum）にて一次史料であるピーテル＝ブリューゲルの絵画作品を視察、及び文書館との連絡を通し、求めている史料の是非について確認を行った。</p> <p>② ハレ文書館における史料収集 ザクセン・アンハルト州ハレの都市文書館において、16 世紀の一次史料を収集した。史料の内容については以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Historische Akten; Armenwesen 1596－1667 年における Armenwesen についての手記史料 16、17 世紀におけるハレでの貧困の本質について書かれたものである。 ・ Historische Akten; Gesundheits- und Wohlfahrtseinrichtungen 1553 年における Gesundheits- und Wohlfahrtseinrichtungen についての手記史料 16 世紀の健康・慈善事業の設備管理について書かれたものである。とりわけ、医者と薬局の項目が多い。 <p>【研究成果】 以上にあげた史料の読解をすすめ、博士論文の執筆を行っている。また、現在もブリュッセルやアントワープの文書館と連絡を取っており、訪問予定である。本研究は、これまでブリューゲルが美術史の解釈の枠組みのなかでしか評価をされなかったことに対し、当時の時代精神を反映する「民衆文化」を擁護、奨励しようとした人物として新たな評価を与えることで、歴史学のなかにおけるブリューゲルの役割を付与することを目的とする。引き続き史料収集を続け、ヨーロッパの社会史に大きく資することが可能となるような研究成果を残すよう目指している。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）					
発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）		